

科目名	建築と社会A
科目名(英訳)	Social Issues in Architecture A
科目ナンバー	EA100A02
詳細情報	授業外学修時間:週4時間
担当者 (非)は非常勤講師	中村 研一 横江 彩 中田 琢史(非) 岡本 肇 内野 正樹(非)
単位数	2
開講学年	3年
開講セメスター	春期毎週
対象学科 選択・必修	必修:EA 選択:
他学科受講	
履修順序・履修情報	
担当者及び時間割	【春学期】 岡本 肇・中村 研一・横江 彩・内野 正樹(非)・中田 琢史(非):水3-4
カリキュラムの中での位置付け ／DP(ディプロマ・ポリシー)	地球的な視野を養い、地域的・歴史的・人間的に多様な価値観があることを理解できる(A1)。現代社会における建築的な重要課題について理解できる(B11)。 【ディプロマ・ポリシー(DP)】2024年度入学生以降対象 ①:○ ③-(1):◎
身につく基礎力 / 身につく汎用力	調査・情報収集力 クリティカル思考力 / 豊かな教養 国際的な視野 多様性

授業の主旨 (概要)	建築は単独で存在するものではなく、歴史的・社会的・経済的な背景あるいは気候風土、また、エネルギー問題・地球環境問題、さらには、住む人の健康問題や快適性の問題との関わりを考えることが重要である。本授業ではさまざまな側面から建築と社会との関わりを学ぶ。		
具体的 達成目標	具体的達成目標は以下の通りである。 1. 建築と都市の関わりに関して近代建築がどのような考え方を展開してきたのかを具体的に説明できる。 2. ユニバーサルデザインの意義を具体的に説明することができる。 3. 環境問題を考える上で建築が果たすべき役割を具体的に説明することができる。 4. 構造設計がどのような考え方で発達してきたのかを具体的に説明することができる。 5. 建築と情報メディアの関係について具体的に説明できる。		
	1	【内容】 ＜オリエンテーション＞＜セッション1＞ 建築と都市（全3回） 1-1 都市から建築を読む：西洋と日本の都市空間の構造と建築空間との関係性	【授業外学習】 事後：講義において示された内容を、講義中に紹介された参考文献を参照することによって考察を加える。
	2	【内容】 1-2 建築から都市を読む：コンテクスチュアリズム、コーリン・ロウ、アルド・ロッシ	【授業外学習】 事前：前回の講義で示された内容を復習し、理解を深める。 事後：講義において示された内容を、講義中に紹介された参考文献を参照することによって考察を加える。
	3	【内容】 1-3 建築とアート	【授業外学習】 事前：前回の講義で示された内容を復習し、理解を深める。 事後：講義において示された内容を、講義中に紹介された参考文献を参照することによって考察を加える。
	4	【内容】 ＜セッション2＞ まちづくりにおけるユニバーサル・デザイン（全3回） 2-1 地域における一体的・連続的まちづくりの視点から	【授業外学習】 事前：前回の講義で示された内容を復習し、理解を深める。 事後：講義において示された内容を、講義中に紹介された参考文献を参照することによって考察を加える。
		【内容】 2-2 地域を構成する個別要素の視点から	

④ 授業計画	5	【授業外学習】	事前: 前回の講義で示された内容を復習し、理解を深める。 事後: 講義において示された内容を、講義中に紹介された参考文献を参照することによって考察を加える。
		【内容】	2-3 市民・NPOの活動の視点から
	6	【授業外学習】	事前: 前回の講義で示された内容を復習し、理解を深める。 事後: 講義において示された内容を、講義中に紹介された参考文献を参照することによって考察を加える。
		【内容】	<セッション3> 環境とエネルギー (全3回) 3-1 建築に関わる環境問題の変遷、地球の健康問題
	7	【授業外学習】	事前: 前回の講義で示された内容を復習し、理解を深める。 事後: 講義において示された内容を、講義中に紹介された参考文献を参照することによって考察を加える。
		【内容】	3-2 人の健康問題、節電と省エネルギーを問う
	8	【授業外学習】	事前: 前回の講義で示された内容を復習し、理解を深める。 事後: 講義において示された内容を、講義中に紹介された参考文献を参照することによって考察を加える。
		【内容】	3-3 建築と省エネルギー、環境に配慮した建築計画・建築デザイン
	9	【授業外学習】	事前: 前回の講義で示された内容を復習し、理解を深める。 事後: 講義において示された内容を、講義中に紹介された参考文献を参照することによって考察を加える。
		【内容】	<セッション4> 構造 (全3回) / 「構造」の面白さを知り、構造について人任せにせず自分で考えてみるという姿勢を施す。構造力学の文化的側面や実践的側面を垣間みることで専門エンジニアと円滑な協働ができるセンスを身につける。 4-1 手考足思の構造デザイン: トーマス・テルフードとジャン・ブルーヴェ
	10	【授業外学習】	事前: 前回の講義で示された内容を復習し、理解を深める。 事後: 講義において示された内容を、講義中に紹介された参考文献を参照することによって考察を加える。
		【内容】	4-2 計算と感覚のあいだ: 構造力学がデザインの道具になるまで、そしてその後
	11	【授業外学習】	事前: 前回の講義で示された内容を復習し、理解を深める。 事後: 講義において示された内容を、講義中に紹介された参考文献を参照することによって考察を加える。
		【内容】	4-3 構造と形態・構造と空間: 自然な x 数学的 x 人為的
	12	【授業外学習】	事前: 前回の講義で示された内容を復習し、理解を深める。 事後: 講義において示された内容を、講義中に紹介された参考文献を参照することによって考察を加える。
④ 授業方法	13	【内容】	<セッション5> メディアと建築 (全3回) 5-1 カルロ・スカルパにみる建築家・施主・施工者の関係
		【授業外学習】	事前: 前回の講義で示された内容を復習し、理解を深める。 事後: 講義において示された内容を、講義中に紹介された参考文献を参照することによって考察を加える。
	14	【内容】	5-2 本のレイアウトにおける空間性とメッセージの差異
④ 成績の評価方法		【授業外学習】	事前: 前回の講義で示された内容を復習し、理解を深める。 事後: 講義において示された内容を、講義中に紹介された参考文献を参照することによって考察を加える。
	15	【内容】	5-3 情報メディアは建築をどのように伝えてきたのか、そして建築は情報メディアによってどのように変容したのか
④ 成績の評価基準		【授業外学習】	事前: 前回の講義で示された内容を復習し、理解を深める。 事後: 講義において示された内容を、講義中に紹介された参考文献を参照することによって考察を加える。
		【内容】	
④ 教科書			
④ 参考文献			
④ 備考			
④ 関連ホームページ			

 メール アドレス	中村 研一 knak@fsc.chubu.ac.jp 横江 彩 slw0562@fsc.chubu.ac.jp 中田 琢史 spm9946@fsc.chubu.ac.jp 岡本 肇 szr2246@fsc.chubu.ac.jp 内野 正樹 skr8400@fsc.chubu.ac.jp
 オフィス アワー	